



9月1日は防災の日！

日 新 聞 【新聞定価1ヵ月 4,037円(本体価格3,738円+消費税299円)】1部売り(消費税込み)朝刊150円 夕刊50円 (第3種郵便物認可)

関東大震災 デマ克明に

井戸水に毒／数限りない噂

1923(大正12)年9月1日に起きた関東大震災を横浜市で経験した女性、被災当時から街が復興するまでの様子をつづった手記が見つかった。被災状況が克明に記されているだけでなく、震災後にはデマや流言が広がったという記述も残されている。専門家は「非常時にSNS(ネット交流サービス)でデマが広がる現代と同じことが起きていたことを証明する貴重な資料」としている。1日は関東大震災から97年の「防災の日」を迎える。

横浜女性の手記

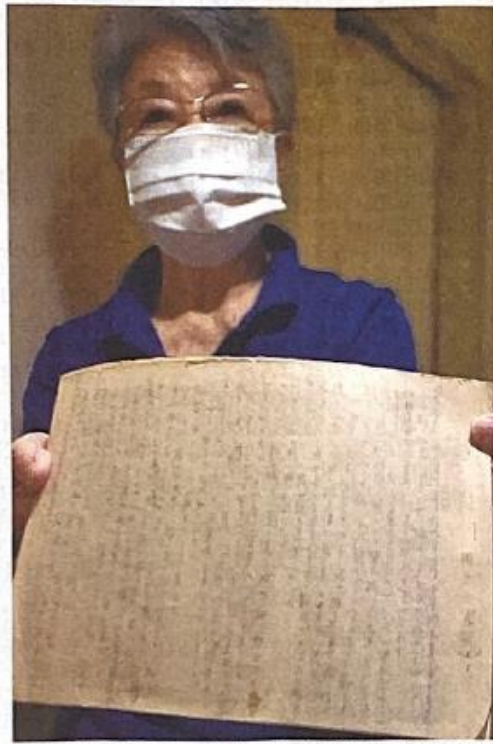


渡辺幾代さん

手記を書いたのは、98年に85歳で亡くなった渡辺(旧姓・多勢)幾代さん。次女の久野明子さん(80)＝東京都世田谷区＝が2014年ごろ、遺品の中から冒頭に「関東大震災」と鉛筆で書かれたノート用紙16枚を見つけた。正確な時期は不明だが、戦後に被災当時を振り返って書

関東大震災

1923(大正12)年9月1日午前11時58分に発生。震源地は相模湾北西部で、地震の規模を示すマグニチュードは7.9と推定されている。死者・行方不明者は約10万5000人で、このうち横浜市内では約2万7000人に上る。



幾代さんが書いた手記を手にする次女の明子さん＝東京都世田谷区で8月28日、高田奈実撮影

きょう「防災の日」

には使用人がいる裕福な家庭だ。家族と買い物に出掛けるために靴下をはいている時だった。△お尻の下が何かモッコッと呼かび上がった感じ△という突然の揺れに襲われ、△この世の終わりがかと身を固くして母の胸の中に顔を埋めた△。自宅は火災や倒壊を免れたものの、一家は一時近くの山に避難した。△東の空はみえないが、北の空は煙で全く覆われている。何かおそろしいものが大きな手を開けてだんだんこっちに迫ってくる感じがした△。山から見た光景をそう記していた。その後は家の庭に小屋を建て、行き場をなくした人たちを受け入れた。

関東大震災ではデマを信じた住民らが各地で多くの朝鮮人を虐殺した。手記には、震災3日目に学校のグラウンドで何人かの男性がさおでたたかれたり、鉄棒に縛りつけられたりしている。同じ日には朝鮮人に対するデマが流れていたという。△噂では朝鮮人が井戸水に毒を入れて回っているとか、ではさっき食べたご飯がすっぱかったのは...。そーとした△。4日目、家族で唯一、行方不明となっていた祖母と再会する。祖母は池の水がある横浜公園(横浜市中区)に避難したが、火に囲まれ身動きが取れなかったという。祖母が自宅に戻ってきた瞬間を△伯母が一目散に走って行って祖母に抱き着いた。あとは涙、涙△と記した。

今につながる教訓 横浜開港資料館(横浜市中区)の吉田律人調査研究員は「非常時には必ずデマが広がる。最近では新型コロナウイルスでも同じことが起きた。100年近く前の震災でもあったことが詳細に書かれており、現代につながる教訓になるはず」と話す。久野さんは「災害があっても『喉元過ぎれば熱さを忘れる』で悲惨なことも忘れられやすい。母の手記から学ぶことは多い」と話す。近く、手記を同館に寄贈する予定だ。【高田奈実】

近年、地震、台風などによる自然災害が多く起きています。首都圏に大きな被害が出ると予想されている南海トラフ地震が発生する可能性も高まっているといわれています。防災の日である9月1日は、関東大震災が起きた日です。関東大震災の際、家屋倒壊や2次災害である火災の発生などで命を落とされた方も多くいましたが、デマが広がり、朝鮮人が虐殺されるということも起きています。SNSなどが発達した現代ではよりデマが広がりやすい状況だといえます。歴史から学び、同じ過ちを繰り返さないために、私たちは日頃から災害に備え、避難用具の準備や訓練を行うとともに、正しい情報を選び取る力を養うことも必要です。東労組には防災士の資格を持った組合員も多数います。仲間と共に防災意識を高め、災害に備えましょう。

(新聞記事：2020年9月1日毎日新聞紙面より)